

## 避難のポイント

### ■路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難しましょう。



**注意** ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。

### ■車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切りましょう。揺れがおさまるまで冷静に、カーラジオなどで情報収集しましょう。



**注意** 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。

### ■エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押して、停止した階で降りましょう。



**注意** 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。

### ■人が大勢いる施設では

むやみに移動すると混乱をまねくおそれがあるため、係員の指示に従い、落ち着いて行動しましょう。

### ■山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意しましょう。



### ■スーパー・ショッピングモール

ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意しながら、柱や壁際に身を寄せ、衣類や手荷物など身近なもので頭を守りましょう。店員の指示に従ってください。



## 地震発生時のNG行動

- ✗** ガスに引火して爆発する危険があるので、火をつけない。
- ✗** 火災の危険があるので、ブレーカーをあげて通電させない。
- ✗** 電話回線がパンクするので、発災直後に不要不急の電話の使用を控える。
- ✗** ケガをする危険があるので、部屋の中を裸足で歩かない。
- ✗** 火災や爆発の危険があるので、電気のスイッチに触らない。
- ✗** 閉じ込められる危険があるので、エレベーターは使わない。
- ✗** ケガをする危険があるので、救出活動は一人ではなく複数で行う。
- ✗** 緊急車両の運行の妨げになるので、避難に車は使わない。

## 地震発生時のタイムライン

### 地震発生

#### まずは自分の身を守る

#### 3つの行動～シェイクアウト～

- まず低く DROP!**  
まずはその場で姿勢を低くする。
- 頭を守り COVER!**  
机の下に入るかフッショで頭を守る。
- 動かない HOLD ON!**  
姿勢を低くし頭を守った状態で揺れが収まるまで動かない。

#### 緊急地震速報

地震発生後、大きく揺れる数秒～数十秒前にテレビ・ラジオ・携帯電話などに警報を発表するシステムです。震源に近い地域は、緊急地震速報が強い揺れに間に合わない場合があります。



#### 揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。
- 火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。
- 靴をはく。

#### 隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかける。
- 余震に注意。
- 非常持出品を用意する。
- 近所に火が出ていたら初期消火。

#### ラジオなどで正しい情報入手

- 正しい情報をつかむ。
- 電話は緊急連絡を優先。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難。

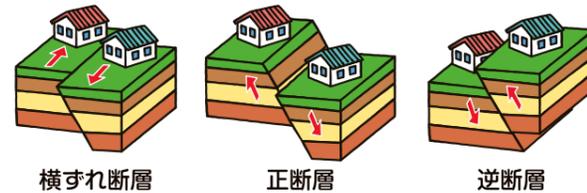
#### 協力して消火・救出・救護活動

- 助け合いの心が大切。
- 水・食料は蓄えているもので。
- 壊れた家には入らない。
- 災害情報・被害情報の収集を行い、デマ情報にまどわされない。

## 地震発生メカニズム

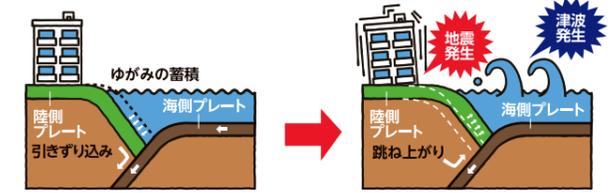
### 活断層地震

地下にある岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



### 海溝型地震

陸側のプレートが海側のプレートに引きずり込まれることで境界にゆがみのエネルギーが蓄積され、これが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が発生します。



## 地震の揺れと想定被害

- 7** 揺れて自分の意志で行動ができない。大きな地割れ、山崩れ、家屋の倒壊が多発する。
- 6強** はわないと動けない。ブロック塀が崩れ、戸がはずれて飛ぶこともある。
- 6弱** 立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、壁に亀裂が生じる。
- 5強** 多くの人が行動に支障を感じる。タンスなど重い家具や、屋外では自動販売機が倒れる。
- 5弱** 一部の人は行動に支障を感じる。家具が移動し、食器や本が落ちる。
- 4** 眠っている人のほとんどが目覚ます。座りの悪い置物が倒れることもある。

## 熊本地震を忘れないで!

平成28年熊本地震は、観測史上初めて、同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生しました。震度1以上の地震回数は、4,400回を上回っています(平成30年4月30日時点)。このような地震活動の長期継続により、避難の長期化や車中泊などの避難所外避難者の増加を招きました。

### ◆荒尾市における熊本地震の被害

市内指定避難所19箇所を開設して対応しました。避難者は1日最大で1,025名となりました。荒尾市において、熊本地震の住家被害を認定するために発行した罹災証明書の発行件数は、88件でした。

	前震	本震
発生日付	平成28年4月14日 21時26分	平成28年4月16日 1時25分
震央地名	熊本県熊本地方	同左
地震の規模	M6.5	M7.3
震度6弱以上を観測した県内自治体	震度7	益城町
	震度6強	なし
	震度6弱	5市町村
荒尾市の震度	震度4	震度5弱

### ◆人的被害・住家被害の状況(平成31年2月13日時点)

人的被害	人数	住家被害	被害棟数
死者	270人	全壊	8,657棟
重軽傷者	2,737人	半壊	34,493棟
		一部損壊	155,028棟
		計	198,178棟

◆熊本市内の被害額(平成28年9月14日時点推計)  
 熊本市内の被害額は3兆7,850億円で、最も高額な項目は建築物(住宅関係)の2兆377億円でした。その次は、商工関係の8,200億円、公共土木施設の2,685億円と続きます。  
 (熊本地震デジタルアーカイブより)



【出典:熊本地震デジタルアーカイブ】



【提供者:熊本大学】  
 【出典:熊本地震デジタルアーカイブ】



【提供者:京都消防局】  
 【出典:熊本地震デジタルアーカイブ】